

[1番 宮崎友理子さん登壇]

○1番(宮崎友理子さん) 私は、女性と男性がお互いを尊重し、平等に暮らせる社会を望んでいます。

一般に、女性の社会的地位の向上が言われて久しいこともあり、男女が平等に暮らせる社会をということは、既に多くの人々の意識に浸透しているようにも見えます。しかし、残念なことに「女性はこうあるべき」というような考えはいまだに日本のあちこちに点在し、モラルとして生き続け、それに縛られていることに気づくことなく生活している人もいます。

別の言い方であらわすと、こういうことでもあります。以前、乙武洋匡さんは講演の中で、「障害者」という言葉のない世界が理想だということをおっしゃっておりました。まさにそういうことなのです。「女はこうあるべき」とか、「女性の地位向上」などという言葉が死語になるような社会が来ることを期待しております。それは、心からお互いをいたわり、尊重し合える社会であり、それが導く先にはおのずと男女が平等に暮らせる社会が開けるとは思いませんか。

私は、およそ20年前に島田市に移り住んでまいりました。転入した当時、早く地域に溶け込みたい。それには私という人物を知ってもらうのが一番だという気持ちから、いろいろ機会があるごとに自分の意見、考えを述べておりました。しかし、私の意に反し自分の思っていることが伝わったという手応えは薄く、相手にしっかりと私を理解してもらえただろうかという不安な日々が続きました。

なぜ手応えが薄いのだろうと考えあぐねているうちに、気づいたことがありました。それは、その当時は女性というものは少し後ろに控えて公の場ではあまり発言をしないのがここでの常識なのだということでした。こちらに来る前に住んでいた私が生れ育ったまちでは女性に対する考え方は

もう少しリベラルで、私はそれが当たり前だと思っ

ていたんです。しかし、時代が進むとともに地元社会のそのような意識は変化し、今は当時と比べたら格段に暮らしやすくなりました。本当にうれしいことです。それは、人々がそのことに気づき、意識を改革していった結果、得られたのだと思います。障壁があっても、みんなで考えることで意識は変えられるのだということでしょう。

今、当時を振り返ると、認識不足で視野の狭かった私にとって、そのような体験はとてもよい学びの時間だったとさえ感じられます。この体験は、私に男女平等の社会を目指したいという意識をしっかりと持たせるよい機会になりました。

私たちは今、本当の男女平等という社会に向かって歩いている途中だと思います。より前進するには、現状をしっかりと把握し、認識すること、そして認識できた課題について話し合い、理解することが大切です。

島田市に女性市長が誕生したことでこの問題をより細やかに受けとめ、解決へつなげることを願っております。今後、島田市はこうした課題をどのように受けとめ、改善していくのでしょうか。島田市の女性の置かれた現状をしっかりと把握し、認識するために、次の質問をいたします。

1の(1)市の職員の女性が占める割合はどれくらいでしょうか。

(2)自治会長、市の審議会などの委員において、女性が占める割合はどれくらいでしょうか。

(3)男女がお互いに尊重し、平等に暮らせる社会の実現に向けた取り組みについて、市長と市民が語り合う機会を持つような計画はありますか。

以上、壇上での質問を終わります。

[1番 宮崎友理子さん発言席へ移動]

○副議長(曾根嘉明議員) 染谷市長。

[市長 染谷絹代登壇]

○市長(染谷絹代) 宮崎友理子さん、御質問あり

がとうございます。私も20数年前に、何かを話せば、あなたは島田市の人ではないでしょうと言われたことを思い出しながらお話を伺わせていただきました。

では、1の(1)の御質問からお答えをさせていただきます。

平成26年4月1日現在、本市の一般事務職員441人のうち女性は136人で、女性が占める割合は30.8%となっております。

次に、1の(2)の御質問についてお答えをいたします。

本市には68の自治会があり、全ての自治会長さんは男性であります。また、市は62の審議会等を設置しておりますが、委員の総数995人のうち女性は170人で、女性が占める割合は17.1%となっております。自治会長に女性の方をということでは、私も自治会長連合会等で是非、女性の役員の方の御推挙をお願いしますということは折りに触れお願いをしておりますが、今年度、自治会長という立場では女性の方はいらっしゃらないということであります。

次に、1の(3)の御質問についてお答えをいたします。

男女がお互いに尊重し、平等に暮らせる社会の実現に向けて、平成25年度に第2次島田市男女共同参画行動計画を策定し、具体的な取り組みを進めております。私は就任以来、市民の皆様との対話を大切にまいりました。今回の女性議会もその一環であります。今後もちろん継続してまいりますし、そして市民の皆様方との膝を交えて話す場を大切にしていきたいと思っております。

先ほど答弁を申し上げましたが、是非、秘書課というところにお電話をください。日程調整をさせていただきますして、人数に関わることなく、私は、皆様方とともに語る、お話をさせていただく時間をつくってまいりたいと思っております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答えさせる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○副議長（曾根嘉明議員） 宮崎さん。

○1番（宮崎友理子さん） (1)の質問に対しての御答弁ですが、私が思っていたよりは多い数字で、少し驚きました。しかし、(2)については想像していたとおりのので、少し悲しく思いました。このような割合は、やはり全体としては少ないのではないかと思います。

国会などの議員の中の女性議員の割合を見てもまだ少ないですが、女性市長が誕生したことや、女性が投票したのが島田市であるということなどを鑑みても、こういうことを上げていくことが島田市を全国に知らしめるという意味でも起爆になるのではないかと思います。これからこの割合を男女が拮抗するぐらい上げていこうという動きはあるのでしょうか。

○副議長（曾根嘉明議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 私は、男性だから、女性だからということではなく、その方の能力やその方の適性、仕事の場における適材適所という言葉がありますが、私は適所適材だと思っておりますので、その仕事にふさわしい人材を、男性・女性分け隔てすることなく登用してまいりたいと考えております。

しかしながら、私が女性の登用を進めたいと思う時に、やはり女性の方々がこれまでに企画や政策に関わる部署で仕事をしてこれなかった等の、やはり人を育てるという意味において、いきなり例えば市役所の部長、課長に、是非、女性をと思っても、やはりそれにふさわしい人がいるかどうかということがまず一番大事なことであります。そのために今、少し時間はかかっても、しっかり人材を育てて、職員の能力が発揮できる、そういった島田市役所をつくっていききたいと思っております。

女性を女性をとというふうにやっけてしまひますと、逆のまた差別、同じ能力であるのに、女性だけが上がって行くというよな別な問題も起こってまひります。そうしたところを平等に見ていくためには、やはりその方の能力だとか、資質だとか、お人柄だとか、そういつたものを配慮しながら、男女に関わりなく進めていく、そのために人を育てるということをやっけていきたくと思ひておひります。

○副議長（曾根嘉明議員） 宮崎さん。

○1番（宮崎友理子さん） 染谷市長になつてから、市長と語る会が増えたのは本当に喜ばしいことだと思ひます。私も何回か参加させていただき、実感いたしました。今、市長が答弁されたことは全くそのとおひりだと思ひますので、これから市長と市民がフラットな立場で話し合える機会を継続して持つていただけたらと思ひます。

最後に私の要望ですが、今までの私の考えとは逆に聞こえるかもしれませんが、今、市長のおっしゃったことと多分、一緒のことを私も言おうとつしているのだと思ひます。

男女平等とは言つても、生物学的に女性と男性という性別がある以上、性別による得手不得手も存在いたします。ですから、良い意味での女性らしさ、男性らしさは積極的に活用すべきだと思ひます。

そして、私がその中で女性としてこれは非常に女性に向いてるのではないかというものを一つ紹介させていただきたいと思ひます。

それは、コミュニティ・ソーシャル・ワーカーという制度のことなのですが、略してCSWと言ひます。もともとはイギリスで提案された小さなコミュニティに焦点を当てた社会福祉活動のことなのですが、大阪府ではこのCSWという制度を生活保護、介護保険、障害者福祉、児童福祉の4つの制度の狭間にいる人や、既存の福祉だけでは対応が難しい人を発見し、行政と連携したりしな

がら社会復帰と生活の安定を目指す手助けをする人のことを定めていまひす。

この仕事などは、細やかな気遣いと人の気持ちを温かく見守ることのできる女性により適してゐるのではないかと思ひます。職業などでも、男性・女性の長所は積極的に活用して生かすことが本当の男女平等社会であると私は思ひておひります。

以上、私の質問と提案といたしまして、この課題がより早く解決することを願ひ、質問を終わらせていただきます。

○副議長（曾根嘉明議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 宮崎さん、ありがとうございます。私も同じ考えでおひります。やはりその能力、資質といいましても、やはりそれとは別な意味で細やかな気づきでありますとか、女性には女性ならではの視点がございます。それを生かそうとして今、こうして女性議会も開いてゐるわけでありまひす。

ですから、男性ならではの良さ、そして女性ならではの良さも生かしながら、かつまた先ほど「障害者」という言葉がない社会が望ましいというお言葉がございましたが、私も男女共同参画と言つた途端に、それがしみ通つていかなひ、そういった実感も持つておひります。そんなことを言わなくても、男性も女性もごく当たり前に助け合ひながら、支え合ひながら暮らしていける社会が実現すること、そしてまた若い人たちはそれを素直に実現してゐるというふうには私は思ひてゐるので

す。この頃のお父様方は子育てにも大変に熱心でございます。子供を育てるという責任を持つて様々な保育所の迎えでありますとか、家事、いろいろ分担等もやっけてゐるよに見受けられます。それが当たり前になつていく中で、男女共同参画という言葉も使われなくなる社会を私も目指していきたくと思ひます。本当にありがとうございます。

○副議長（曾根嘉明議員） 宮崎さん。

○1番（宮崎友理子さん） 市長に私の考えが伝わったことを大変うれしく思います。

これで質問を終わらせていただきます。